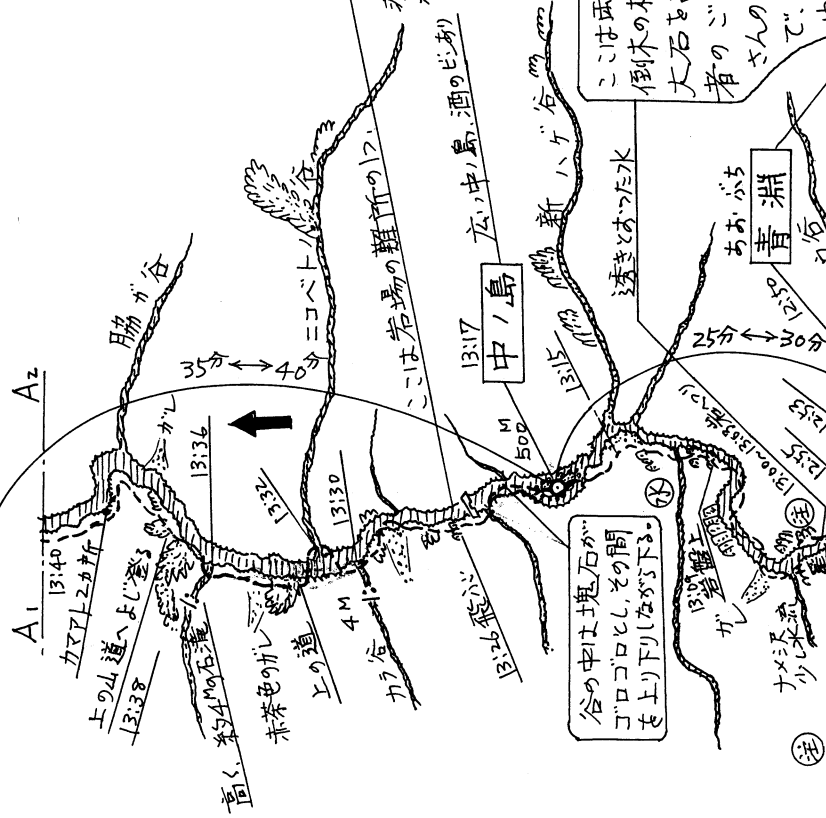


# さ め 佐目子谷 1/2



左岸のオバハンガした岩が邪魔で通水ないの思案する。止まも得ず左から岩によい登り、巻き込んだけりどすいノイバラにひつかかて飛び降りることもままならず苦勞してこの岩を越えてホッとする。

滝をもつ狭い岩壁の間、黒紫の岩盤をよじ登って、左から迫るルンゼ状の壁を見ながら飛び降りる。滑滝がかり、直下は青淵となっている。失敗すれば岩へドボンだ。小真重に勇氣と自信のいる難所である。誠にサメゴ谷の渓流中の曲流とぞの美しきは、最高のクライマックスの場所でもある。3人うまく飛び降りて青淵の前に立つ。

危険ではあるがよい曲流だ

ここは両岩壁迫り進退きわまる。谷さんうまい倒木の枝に乗り移り、水際の岩棚へ飛び、大石を投げ入れ、身軽に一足飛びで忍者のごとし、私と三浦さんも要領よく谷さんの真似として越える。高巻きも危険で、巻いても上部からは下るに適當なゆるやかな斜面の無い彩色壁である。

佐目峠よりおと1時間下る。右から水量の多い谷と出会うが、これが深谷で、岩をうかつ渓流に見とれる。季節は新芽と若葉が、輝く太陽に映えて、その美しさは言葉に出ない。芝の長いサメゴ谷では、ゆつり昼食の時間は無い。おちたずびと水で流し込んて、すぐ出た。

疲れたらここで休憩して下る。

サメゴ谷の水量が少い。

曲がる。12:42

40分 → 50分

12:30 大石

12:30 大石

12:30 大石

12:30 大石

12:30 大石

12:30 大石

12:30 大石

12:30 大石

12:30 大石

12:30 大石

12:30 大石

12:30 大石

12:30 大石

12:30 大石

12:30 大石

12:30 大石

12:30 大石

12:30 大石

12:30 大石

12:30 大石

12:30 大石

12:30 大石

12:30 大石

12:30 大石

12:30 大石

12:30 大石

12:30 大石

12:30 大石

12:30 大石

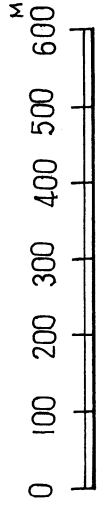
12:30 大石

12:30 大石

佐目峠までの行程

- ◇ 名古屋発 6:05 急行で「富田」から三岐鉄道 保々 7:00 着
- 筒井さんのマイカーで「朝明伊勢谷」小屋前まで 7:30 着
- 7:35 出発 根平峠 8:10 ~ 愛知川 8:25 ~ 8:30 クラシ谷への尾根を行きクラシ谷へ迂回してイグネ北端へ 10:35 ~ 10:43 佐目峠へ 10:57 着。

源流は蛙の音も無く静寂そのもの。薄気味悪い、小まどりの源流に沿う。跡は怪しい、誠に秘境である。炭焼きも、30年前には終ったであろうこの谷は、沢の石も黒く、苔むすしつとりとした空気が漂っている。今日は3人だから、心強く、充分気を使って記録して行く。



S 1/10000

1976 昭和51年5月15日(土)

イグネJ頂上 24℃ 風速 3m/s

快晴 登り 登山日和

谷田幹夫・三浦利和・奥村光信

43才 51才 46才

佐目峠の道標より東へ約30m移動して、サメゴ谷源流を探り下る。すぐ水流が出て来て、これがサメゴ谷であること地図で確認する。あとは道無き道のサメゴ谷ではあるが、さすが炭焼き道が、わずかにあって、その足跡と忠実に下りて行く。佐目のバス停までは約4時間の豪快な大下りである。炭焼き跡が、おのれ気分的には安心して下ることが出来る。

(二又)

深谷出合

谷

谷

谷

谷

谷

谷

谷

谷

谷

谷

谷

谷

谷

谷

谷

谷

谷

谷

谷

谷

谷

谷

谷

谷

谷

窟跡と大ガレ

黒光りする大きなガレ

前に足跡

477m

477m

477m

477m

477m

477m

477m

477m

477m

477m

477m

477m

477m

477m

佐目峠

水場

水場

水場

水場